

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400129		
法人名	有限会社スマイルケア		
事業所名	グループホームゆらり		
所在地	玉野市玉原2丁目-17-21		
自己評価作成日	令和4年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 津高生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	令和4年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ひとりひとりの人格を尊重して、穏やかで尊厳を守った生活ができるように力添えしている。毎日が変化と笑顔のある生活のために、毎日20分レクリエーションの時間を設けている。コロナの影響でボランティアの受け入れなどは困難になったがそれぞれの職員が率先して利用者様とかかわっていただける時間を作ることに重きをおいている。外への研修へ参加する機会はコロナの影響で持ちにくくなってしまったが、毎月スタッフがそれぞれが介護やその他の知識を習得する機会を持っている。防災訓練、避難訓練にも力をいれ勉強会を開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設以来、地域環境に変化があり商店街や地域住民の減少と高齢化が進み、またさまざまな環境の変化と共に地域に根差したグループホームとして支援に取り組んでいます。信頼の構築に向けた職員のスキルアップ維持の工夫やハザードマップに基づく防災・避難訓練に努めています。地域の資源としてのグループホームに目を向けた運営の取り組みに期待が持たれます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時より、事業所としての理念を掲げ、トイレ、共同スペース、HPなど開示し理念を共有している。スタッフは理念を念頭に置いて日々のケアに努めている。	特に入職時、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を元に、入居者支援をすることの大切さを知ってもらい、日々の実践に取り組むよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にボランティアで催し物をお願いしたり、施設隣の公園で行われる桜祭りに参加し舞台に立つなど交流を図っていたが、感染症が流行ってからは外へのかかわりはなくなっている。	コロナ禍、地域の高齢化も含めた衰退を危惧しながら事業所として出来る交流として、公園散歩などから再開しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設外でのイベントなどには感染症の影響もありあまり参加できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、民生委員や家族の参加を呼びかけ運営推進会議を開催していたが感染症が流行ってからは運営推進会議も中止しているし面会も遠慮させていただいているためご家族の意見等を聞くこともあまりない。	今までのやり方だけではなく、ウイズコロナを念頭に何かできないか、どうしたら運営推進会議を活かせるか模索している様子が窺えます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	オンライン研修会などには参加し情報共有に少なからず努めている。	事業所の実情を伝え、日頃より協力関係を築くよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを用意し、研修などでも理解を深めている。玄関の施錠はしているが家族の安心となっている。四点柵はせず入居者の意思で移動ができるようにしている。	防犯上、施錠はしているが声掛けによる拘束について、仕草・言葉尻・ニュアンスを大切にしながら身体拘束をしないケアに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月いろいろな項目の資料を作り勉強している。虐待などの早期発見のためにあざチェックシートなどを活用している。研修や勉強会などを多く実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度については研修などで学ぶ機会もあった。今現在利用している入居者もいるので理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明している。後々誤解がないように出来るだけ書面に記入、押印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には積極的に声をかけている。意見箱も設置し、匿名で入れることができる場所にある。運営推進会議なども活用していたが、感染症が流行ってからは外からの交流もなくあまり出来ていない。	コロナ禍、外部との接触を避けているため、「ゆらりだより」で、入居者一人ひとりの状況を報告し、ご家族の意見を聞くよう努め、リモートでの要望や意見を聞く、取り組んでいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より管理者も通常勤務に入っており、気軽に意見を言える状況にある。全体会議などでもすべてのスタッフが発言、提案できる環境にある。連絡ノートも活用し誰でも記入できるようにしている。	職員の日頃の気付きを大切にしながら、施設のハード面での改善点や入居者の状況、職員の現状など報告できる場を設けています。	職員の一人ひとりの現状を把握し、職員をつぶやきや愚痴を、意見として話し合えるような雰囲気づくりに努め、反映して行かれることを期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人員が足りない期間も多くあったが、求人広告などで広く募集した。人手が足りない中でも一人一人の負担が少ない方法を模索した。試験を受けるための費用の負担や資格手当も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染症が流行ってからは外の研修会に参加することも困難な為、施設内で研修用資料を熟読し、研修報告を全職員が提出するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での研修会、情報交換会に参加し、そこの情報を取り入れサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に居宅など訪問し、ご本人の生活環境などをみて、家族、本人の思いを聞きアセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、契約時などに家族の不安などを和らげられるようお話している。要望なども可能な限りさせていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より、入居者の情報をスタッフ間で共有し、入所と同時的確な支援を行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者個々が出来ることを見極め、見つけ出来る事はやっていただいたり、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	細かなことでもご家族に相談し、敬老会さくら祭りなどの出し物への参加のお誘いをしたり、運営推進会議で意見をいただいたり、ご家族の意見を取り入れながらケアに努めていたが感染症がはやってからは出来ないことも増えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りに参加したり、ボランティアなどを取り入れ、多くはないが外へのかかわりを持てるよう支援している。なじみの知り合いが来てくれることもあったが感染症が流行ってからは面会も断っているため難しい面もある。	コロナ禍での関係継続を事業所として又、入居者一人ひとりの状態に併せどのような支援が可能かなど、方法を模索している様子が窺えます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、個々が協力してできるレクリエーションや手伝いをしてもらったり3人がけのソファーを利用して入居者同士がより良い関係を築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院したり、他の施設に移ったりした場合は、介護情報などの情報提供をしている。必要に応じて、相談や支援に努める。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情などから本人の気持ちが把握できるよう努めている。困難な場合は家族の話やご本人の生活歴などから検討している。	職員が入居者の生活歴を共有し、身近な話題から入居者が気軽に話せるよう工夫し、会話の中からその人らしい暮らしへの検討に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴が把握できるようアセスメント時には自宅を訪問するなどし把握に努めている。またスタッフは必ずフェイスシート、アセスメントシートに目を通し情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、経過記録の情報量を充実させている。スタッフ間での申し送りは細かなことも報告し状況把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	よりよいケアの為、本人、家族から話を聞き必要に応じてカンファレンスを開いている。常に現状を把握し現状に即した介護計画を作成実行している。	日々の介護からケアプランとのズレ又、プラン通りのケアでよいかなど検討し、医療関係者も交え、今、過去を比較して現状に即した介護計画を作成するよう取り組んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、本人の様子、思いがよく分かるように、本人の言葉を交え記入しスタッフはいつでも過去の記録を見れるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の代わりに病院に受診したり、洋服など用意したり、嗜好に合わせた食事など、ニーズに合わせて行えることは柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の協力も得て、紅葉を見に行ったり桜祭りに参加している。近所の公園へ散歩などが楽しめるよう多くはないが支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医の往診を受けている。2つの病院が往診に来てくれる。情報提供した上、家族の協力をお願いして病院受診することもある。	協力医により、2週間に1回往診を受け、職場内に看護師もおり、日々健康管理に注視し適切な医療を受けられるよう支援に努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と常に連絡が取れるよう体制を整えていて、些細なことでも何かあれば相談、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早い段階で情報提供を行う。入院が必要な時は往診にきてくれる病院へ入院になることもある。また些細なことでも電話で相談できる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、書面などで家族に確認をしている。終末期が近づけば家族も交えできることを話し合っている。	日中と夜間に看取りを経験しています。家族と刻々と変化していく様子、予測しうる状況を伝え、家族の不安がないようチームで支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、会議などでも度々話し合っている。職員全員が慌てず対応できるようにレベルを上げていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は昼、夜を想定した避難訓練、勉強会など毎年2回ほど行っている。それに加え土砂災害を想定した訓練等もとりいれるようにしている。	あらゆる場面を想定し、昼夜を問わず訓練に取り組んでいる様子が窺えます。	ハザードマップで土砂災害避難地区になっているので、それを想定した訓練も実施し、地域との協力体制を築いて行かれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の尊厳を尊重しプライドや尊厳を損ねない、さりげない声かけ、ケアを職員は心掛けている。	入居者の一人ひとりの性格に合わせた、プライバシーの尊重や言葉掛けに努めています。職員同士で気がついた時は注意し合いながら入居者の誇りを損ねないよう取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者個々とのかかわり、話をする時間をしっかりと、何をする際にも入居者がどうしたいかをしっかりと聞くように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決まった流れはあるが、その時の入居者の気持ちや体調に合わせて無理強いない、本人のペースで生活していただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装はできるだけ本人に選んでもらい、服が汚れていたりすれば更衣を勧め、散髪の手配をしたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか入居者に意見を求めたり、料理を手伝ってもらったり、片づけを手伝ってもらったりもしている。	入居者の食べたいものを聞きながら、職員の手作り料理を職員同士栄養バランスをチェックしながら、優しい味付けで季節に合わせた食事を心掛けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のinとoutの記録を徹底している。一人ひとりの状態を把握し各人の食事量、必要な水分が確保できる様に、全職員が一丸となって取り組み健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る人、介助が必要な人など本人の状態に合わせて口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをチェック表などで把握し、自分から行きたがらない人でも2～3時間おきにトイレを勧める声掛けをしている。	トイレでの排泄を含め、個々に応じた支援に努めています。夜間は出来るだけ安眠の妨げにならないよう配慮しながら個々に合わせた対応に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防にヨーグルトを毎日食べてもらっている。軽い運動を勧めたりもする。それでも滞るときはお腹のマッサージや便秘薬を追加するなどしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は午後の時間としているが、本人が入浴を望んだり、排泄の失敗などの時は臨機応変に対応を心掛けている。	入浴は一人ひとりの体調に合わせ、職員との会話又、音楽を聴きながらの入浴など、楽しい時間と捉えた支援を心掛けています。車椅子の方にはスロープインバスで安心して入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の体調、体力なども考慮し、日中でも横になったり、生活習慣に合して、ゆっくり睡眠もとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬状況については、ファイルして情報共有している。頓服(解熱剤など)など服用する時は看護師の確認を取ってから服用と取り決めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で手伝いやパズル、塗り絵など出来る事、楽しめることを探し気分転換してもらっている。入居者が欲すればコーヒーなどいつの時間でも用意している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人手と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、日光浴、散歩、買い物同行の機会を増やし、脚力低下防止に努め、気分転換を図れるよう、外出の支援に努めているが戸外へ出る頻度は多くは出来ていない。感染症が流行ってからはさらに顕著である。	コロナ禍、外出がままならないが、他の階の入居者と交流したりして工夫に努めています。「ウイズコロナ」を念頭に、外出支援にも取り組めるよう検討しています。	コロナウイルスが蔓延するようになって3年になります。入居者の体調などを考慮しながら、三密などの感染防止に努めながら外出支援を再開されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額のお金を所持している入居者もいるが自分で使われることはあまりない。歯磨き粉、ボールペンなど些細な買い物のお手伝いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特定の入居者は毎日19時半にご家族からの電話を取り次いだり、本人の希望に応じて電話をかけたりにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、飾りつけをしている。室温調整にも気を遣って入居者に確認している。大きなテラスがあり季節を感じる事が出来る。天井が高く圧迫感もない。	木製に和紙と竹をあしらった居室のドアが共用空間の落ち着いた雰囲気を作り出しています。4階からの眺めは開放感があり、又公園の四季折々の移ろいは暮らしの潤いになっているようです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで入居者同士が呼び合い、そばに座り、気があった者同士で語らって過ごしている。たまに一人になりたい時は少し離れた場所の椅子に座って居る方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇、布団などなじみのものを持ってきてもらうよう勧め、本人が安心して過ごせるような部屋になるようしている。	居室は、クロゼットと引き出しの整理棚が常設され、一人ひとりの馴染みのものをそばに置き、安全で過ごしやすいように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者の状態を把握し、個々のレベルに合わせ安全かつ、出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		